

第5回講座： 言語活動の効果をもつめるための 工夫とパフォーマンス評価

明海大学
金子義隆

講座の流れ

1. 言語活動とその意義
2. 言語活動の効果を高める3つの工夫：
 - ①必然性の設定
3. 言語活動の効果を高める3つの工夫：
 - ②インタラクション中のuh-huhを大事に。
4. 言語活動の効果を高める3つの工夫：
 - ③教師のフィードバックの活用
5. 言語活動の評価：パフォーマンス評価と実施までのプロセス

小・中・高における外国語の目標

小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの 言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動 及びこれらを結び付けた 統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>

「言語活動」とは

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（2017年文部科学省）

◦ 授業の中心は言語活動

- コミュニカティブ・アプローチ：教師の説明を通してではなく、**子どもが自ら英語を使って（コミュニケーションをして）習得。**
- 教師は、コミュニケーションを促進する**ファシリテーター**でもある。
- 言語活動の効果を高める工夫：
 - ① コミュニケーションを行う必然性の設定。
 - ② インタラクション中のuh-huhを大事に。
 - ③ フィードバックの活用。

①コミュニケーションをおこなう必然性の設定

- 子どもがコミュニケーションの場面や状況、目的を理解し、**自分事として捉えて、自己投影できるかが重要。**
- コミュニケーション（言語活動）をしなくてはいけない、したいと思わせる**場面設定**が大事。⇒ **必然性の設定。**
- コミュニケーションの場面があるからこそ、「**思考**」・「**判断**」・「**表現**」が伴う。
- 文部科学省mextchannelの「小学校の外国語教育はこう変わる！
⑧～児童の意欲を高めるゴール設定の在り方～」を視聴（約8分）。
- ビデオURL：https://www.youtube.com/watch?v=cfrf07_-iEM

Workshop 1 :

- ビデオ内のコミュニケーション活動を行う際の必然性のある場面設定のやり方を参考にして、今まで行った効果的な必然性のある場面設定を共有してください。（3,4人のグループワーク；3分）
- 2つの区市によるGood practiceの発表。（2分×2）

②インタラクション中のuh-huhを大事に

- **uh-huh**とは「気づき」。
- インタラクション中には、言いたいことが分かった時に子どもにたくさんのuh-huhが生まれる。⇒Focus on form
- uh-huhを大事にする方法：
インタラクション中（間）の**支援 = 足場掛け**（Scaffolding）。

足場掛けを活用した「外国語」の授業展開の例

① 音声で十分に慣れ親しむ。
② 慣れ親しんでから、読む・書く

1. 指導者（ときにTT）によるSmall talk
2. 指導者とクラス（又は代表児童）とのやり取り
3. ペアで伝え合う活動（1回目）
4. 指導者・できる子からの支援 = 足場掛け（Scaffolding）
 - DVD視聴（3：40 - 4：55）
5. ペアで伝え合う活動（2回目）
6. 話した一文を，例を参考に書く活動

・コミュニケーションの
目的・場面・状況
・話題
・言語材料

③教師によるフィードバックの活用：

- 子どもたちの英語が不完全なのは当然。エラーには寛容に。大事なことは、相手に通じること。⇒適切さ = Acceptability
- 研究結果：ネイティブより日本人教師の方がエラーに厳しい。
- 大概のエラーは英語力向上とともに自己修正できるようになる。
- フィードバックは、ローカルよりグローバル・エラーなどにフォーカスする。
- グローバルエラー：コミュニケーションを妨げたり、指導の中心となる内容に対するエラー
- フィードバックは大別して2種類：インプット提示型とアウトプット誘導型。

③教師によるフィードバックの活用：

- インプット提示型の代表例：Recast
- アウトプット誘導型の代表例：子どもが間違えた個所の手前で止めて自己修正を引き出す（誘導 = Elicitation）。
- アウトプット誘導型は、子どもが既に十分に学んでいる場合のみ有効。
- 教師の基本的スタンス：Recastを中心に、既に何度も扱っているエラーには、子どもの自己修正を引き出すことも有効。
- 子どもが書いた英語にフィードバックする。

言語活動の評価：パフォーマンス評価

- 今回のニーズ調査：教育委員会からの要望。
- 「指導と評価の一体化」を実現するために：目標をCan-Do「～できる」形式で設定して、単元全体を通して目標を達成できるように指導をし、主に単元末に目標の達成度「～できるかどうか」を評価する（＝パフォーマンス評価）。
- 特に、単元終末活動はパフォーマンス評価の場面と考えられる。

パフォーマンス評価の重要性

各学校で設定した目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、「**外国語を用いて何ができるようになるか**」という観点から単元全体を見通した上で、授業の中で育成を目指す技能やその活用方法について**重点化**して指導し、単元目標と年間の到達目標とが有機的につながるよう、単元・年間を通して「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」について、全ての観点から総合的に評価することが重要である。

その際、前述 2. (3) の資質・能力を育成する学びの過程を通じて、筆記テストのみならず、**面接、エッセー、スピーチ等のパフォーマンス評価**、活動の観察等の多様な評価方法から、その場面における児童生徒の**学習状況を的確に評価できる方法**を選択して評価することが重要である

(外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ)

パフォーマンス評価のルーブリックとは

- **ルーブリック**とは：「パフォーマンスの質（特徴）を段階的な尺度で記述した**評価基準表**」

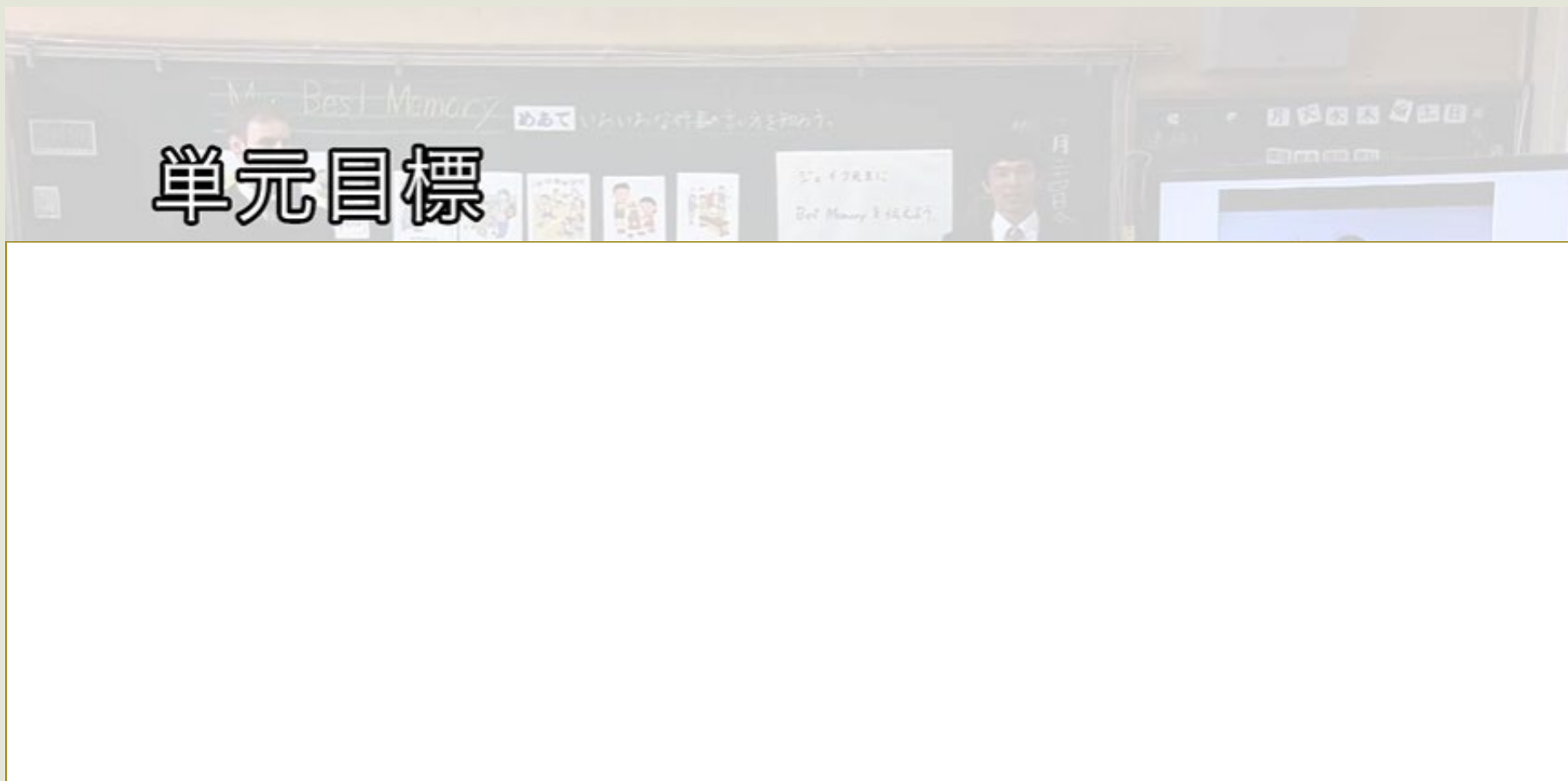
（cf. 松下佳代（2007）『パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する』）

- 評価において、**信頼性を担保するが大事。⇒採点の公平性**
- ルーブリックの作成にあたっては、「つきたい力」（Can-Do）を踏まえて、3観点のそれぞれでどのような評価ポイント（項目）から評価するのかといった下位の観点を定め、その定義となる評価規準を記述する。その上で、それぞれの評価項目がどのような具体的な基準のもとに評価されるのか、パフォーマンスを段階的に記述する。（長沼、2021）

パフォーマンス評価を実施するまでのプロセス

1. 単元目標をCan-Doで設定する。
2. Can-Do形式単元目標を評価する場面（言語活動）を設定する。
3. 評価項目を基に、3観点毎の評価規準を考える。
4. 評価場面で子どもに求める（目標となる）パフォーマンス・モデルを考える。
5. パフォーマンス・モデルを基に、3観点毎の段階的評価基準を考える。
⇒ **ループバック完成**
6. 授業はバックワード・デザインでゴールを意識しながら指導し、子どもに十分な練習を通して自信を持たせてから評価する。

1. 目標をCan-Do形式で設定する。



2. Can-Do形式の目標を評価する場面を設定する。

- この単元目標には、3つの中心となる言語活動がある。
1 聞く活動 2 書く活動 3 伝え合う活動
- それぞれの言語活動を評価する場面を考える。
 - a. ここでは、伝え合う活動（⇒発表活動）だけを取り上げる。
 - b. 必然性のある場面設定に合わせて単元の目標を設定する。
 - c. 単元終末の他校のALTに赤江小の良さを知ってもらうために思い出を伝える（発表する）活動を評価場面と設定する。
- 上記の言語活動において、外国語の目標や領域別目標に見られる評価項目を基に、子どもに求める評価規準を考える。

話すこと「発表」

ア. 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、**簡単な語句や基本的な表現**を用いて話すことができるようにする。

イ. 自分のことについて、**伝えようとする内容を整理した上で**、**簡単な語句や基本的な表現**を用いて話すことができるようにする。

ウ. 身近で簡単な事柄について、**伝えようとする内容を整理した上で**、**自分の考えや気持ちなどを**、**簡単な語句や基本的な表現**を用いて話すことができるようにする。

小学校学習指導要領 外国語 目標

3. 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、
他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いて
コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価項目

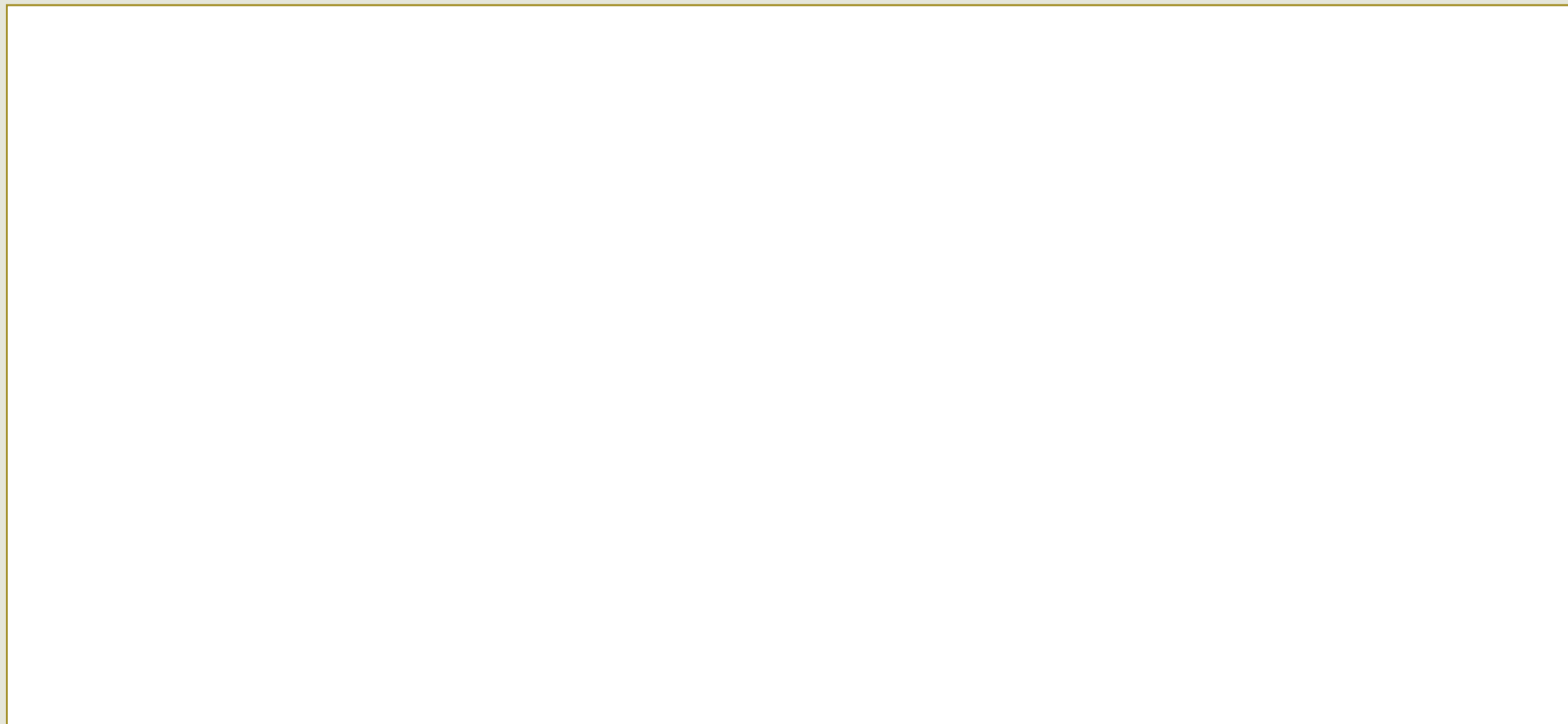
3. 評価項目を基に、3観点毎の評価規準（例）

必然性の設定

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと（発表）	<p><知識> 思い出の学校行事を表す語彙や表現を含む文について理解している。</p> <p><技能> 思い出の学校行事を表す語彙や表現を含む文などを用いて自分の考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。</p>	<p><u>他校のALTに赤江小学校の良さを分か</u> <u>ってもらったため</u> <u>に、他者に配慮し</u> <u>ながら思い出の学</u> <u>校行事について伝</u> <u>える内容を整理し</u> <u>て発表している。</u></p>	<p>他校のALTに赤江小学校の良さを分か てもらったために、他 者に配慮しながら思 い出の学校行事につ いて伝える内容を整 理して発表しようと している。</p>

評価項目

Workshop 2：評価場面で子どもに求めるパフォーマンス・モデルの具体を実際に考えてみてください。

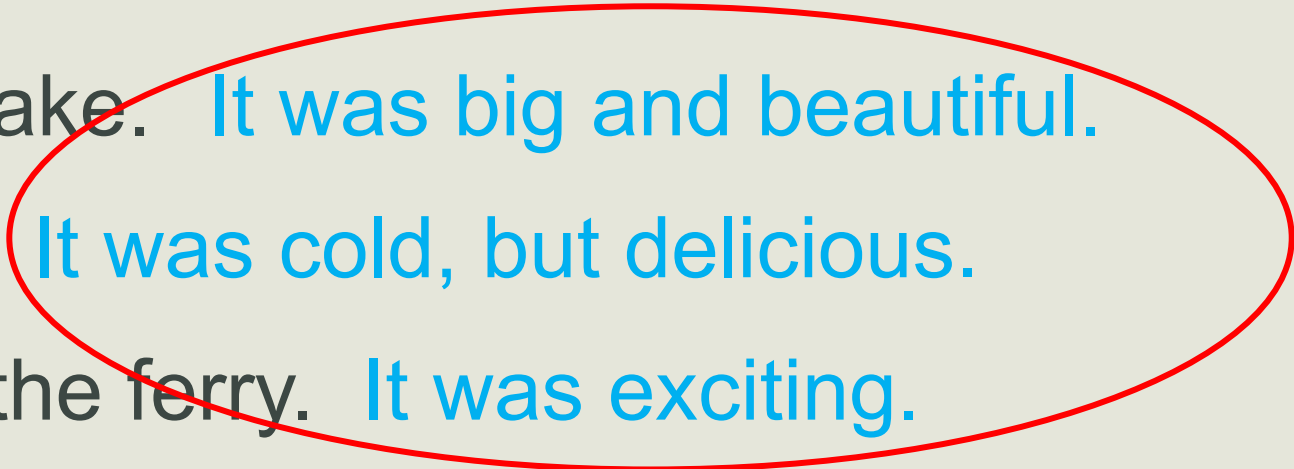


3. 子どもに求めるパフォーマンス・モデル（例）

<モデル>

- My best memory is (from) my school trip.
- I went to Nikko.
- I saw Chuzenji Lake. It was big and beautiful.
- I ate shaved ice. It was cold, but delicious.
- I enjoyed taking the ferry. It was exciting.
- Thank you for listening.

既習表現を使って
内容の膨らまし



Workshop 3: パフォーマンス・モデルを基に、「知識・技能」の 評価項目を評価する段階的評価基準を考えてください。

観点	評価項目	評価規準	評価基準		
			A 十分満足 できる姿	B おおむね満足 できる姿	C 努力を要する 状態
知識・ 技能	英語の特徴・きまり (言語材料。特に、 語彙や表現)	<技能> 思い出の学校 行事を表す表現を含む文などを用いて自分の考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。			

5. パフォーマンス・モデルを基にした「知識・技能」の段階的評価基準（例）

観点	評価項目	評価規準	評価基準		
			A 十分満足 できる姿	B おおむね満足 できる姿	C 努力を要する 状態
知識・ 技能	英語の特徴・きまり (言語材料。特に、 語彙や表現)	<技能> 思い出の学校行事を表す表現を含む文などを用いて自分の考えや気持ちなどを話す技能 を身につけている。	当該単元で学習した 語彙や表現 に加えて、 既習表現を組み合わせて 話している。	当該単元で学習した 語彙や表現 を使って話している。	一人では当該単元で学習した 語彙や表現 を使って 話すことがまだ難しい 。

参照：「小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル」

Workshop 4: パフォーマンス・モデルを基に、「思考・判断・表現」の段階的評価基準を考えてください。

観点	評価項目	評価規準	評価基準		
			A 十分満足できる姿	B おおむね満足できる姿	C 努力を要する状態
思考・判断・表現	内容の整理・構成	他校のALTに赤江小学校の良さを分かってもらうために、他者に配慮しながら思い出の学校行事について伝える内容を整理して発表している。			

5. パフォーマンス・モデルを基にした「思考・判断・表現」の段階的評価基準（例）

観点	評価項目	評価規準	評価基準		
			A 十分満足できる姿	B おおむね満足できる姿	C 努力を要する状態
思考・判断・表現	内容の整理・構成	他校のALTに赤江小学校の良さを <u>分かってもらうために</u> 、他者に配慮しながら思い出の学校行事について伝える内容を整理して発表している。	自分の思い出について、聞き手に内容が伝わるように整理し構成を考えつつ、自分の考えや気持ちなど内容を膨らませて話している。	自分の思い出について、聞き手に内容が伝わるように整理し構成を考えながら話している。	一人ではモデル文等を参考にしても内容の整理と構成を考えて発表することがまだ難しい。

Workshop 5: パフォーマンス・モデルを基に、「主体的に学習に取り組む態度」の段階的評価基準を考えてください。

観点	評価項目	評価規準	評価基準		
			A 十分満足 できる姿	B おおむね満足 できる姿	C 努力を要する 状態
主体的に学習に取り組む態度	他者意識・主体性	他校のALTに赤江小学校の良さを分かってもらうために、他者に配慮しながら思い出の学校行事について伝える内容を整理して発表しようとしている。			

5. パフォーマンス・モデルを基にした「主体的に学習に取り組む態度」の段階的評価基準（例）

観点	評価項目	評価基準	評価基準		
			A 十分満足できる姿	B おおむね満足できる姿	C 努力を要する状態
主体的に学習に取り組む態度	他者意識・主体性	他校のALTに赤江小学校の良さを分かってもらうために、他者に配慮しながら思い出の学校行事について伝える内容を整理して発表しようとしている。	聞き手によく伝わるように適切な工夫（声の大きさやジェスチャー、アイコンタクトなど）を行っている。	聞き手に伝わるように工夫（声の大きさやジェスチャー、アイコンタクトなど）を行っている。	一人では聞き手を意識した発表はまだ難しい。

6. 授業はバックワード・デザインでゴールを意識しながら指導し、子どもに十分な練習を通して自信を持たせてから評価する。

- パフォーマンス評価というゴールから逆算して授業を展開できる。
- 子どもに何を身に付けさせるべきかが明確になる。
- 子どもには十分な練習の機会を提供。
⇒ 自信を持って本番に臨める。
- パフォーマンス後に、Can-Do目標を自己評価させる。

パフォーマンス評価における留意点

- コミュニケーションにおける目的・場面・状況の設定が明確であること。
子どもがコミュニケーションしたいと思える場面設定が重要。校内研修などでグッドプラクティスを共有する。
- 適切なモデルを前もって示す。例えば、前年度によくできた子どものビデオや教師自身の例。
- 子どもとルーブリックを共有する。
- パフォーマンス自体はできれば録画する。あとで確認ができるし、複数人で採点する場合にも有効。

パフォーマンス評価の限界を補完する。

- 単発のテストでは評価しきれない部分がある。テストには限界がある。
- **単元の評価規準**を達成できているかどうかを**単元全体を通して見取る**ことで、パフォーマンス評価の限界を補完する。

Q & A Time


- ご質問等ございましたらお気軽にお願いいたします。

引用資料：

- 泉恵美子・小泉仁・築道和明・大城賢・酒井英樹（2020）「すぐれた小学校英語授業～先行実践と理論から指導法を考える」
- 泉恵美子・長沼君主 他（2019）「小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル～思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力評価試案2～」
<http://izumi-lab.jp/easel.html>
- 泉恵美子・長沼君主 他（2021）「小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル
～小学校英語教科書5領域観点別評価試案～」
<http://izumi-lab.jp/easel.html>
- 金子義隆（2021）MEIKAI-JOEプラス第1回講座「学習指導要領と第二言語習得理論の理解に基づいた小学校英語教育の心構え」 講座資料
- 国立教育政策研究所（2020）「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校外国語）」

参考資料：

- 松下佳代（2007）「パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する」
- 文部科学省（2017）「外国語ワーキンググループによる審議のとりまとめ」
- 文部科学省（2017）「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」
- 文部科学省（2017）「小学校学習指導要領 外国語活動・外国語編」
- 吉田研作（2022）MEIKAI-JOEプラス2022第1回講座「新学習指導要領の原点」
講座資料



ご清聴とご参加ありがとうございました。

皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。